

生涯教育研修会報告書

学術部 学発番号 第 12-049 号

平成 24 年 12 月 5 日報告

報告者：小西 由久

所属：舞鶴共済病院

連絡先：0773-62-2510 (内線 152)

日時：平成 24 年 11 月 29 日(木) 19:00～20:30

場所：舞鶴西駅交流センター 第2会議室

主題：微生物検査研修会

演題：敗血症とプロカルシトニン

講師：誉田託示氏

講師所属：シーメンスヘルスケアダイアグノスティクス株式会社

マーケティング部疾患マネジメントグループ

協賛等：シーメンスヘルスケアダイアグノスティクス株式会社(協賛)

全体参加人数：16 人

京臨技会員：16 人

日臨技会員：14 人

非会員参加人数：0 人

以下の内容で研修会を行いました。

敗血症とプロカルシトニン、1)感染症と敗血症マーカー蛋白、2)海外を含むガイドラインにおけるプロカルシトニン、3)プロカルシトニンの特性、4)重症細菌感染症と敗血症の診断、5)プロカルシトニンと疾患の重症度、6)プロカルシトニンレベルの上昇をきたす非細菌性要因、7)予後マーカーとしての有用性と敗血症の進展の評価、8)抗生剤治療の適応とモニタリング、以上の内容で講演があった。

プロカルシトニンは敗血症関連蛋白で、カルシウム代謝関連ホルモンのひとつであるカルシトニンの前駆物質として甲状腺 C 細胞で生成される。健常人では、血中に出てこない。全身炎症を伴う細菌感染時には諸臓器からプロカルシトニンが産生される。ウイルス感染時には産生されない。プロカルシトニンレベルの上昇をきたす非細菌性要因として、外科手術、重症外傷、多臓器不全などがある。新生児でも上昇する場合があるため、診断には注意が必要である。また、感染の急性期には偽陰性を示す場合がある。プロカルシトニンは敗血症の早期鑑別診断に最も適したマーカーである。とてもわかりやすく非常に有意義な研修会であった。